

日本学術会議 課題別委員会
自然災害軽減のための国際協力のあり方検討委員会
人材育成・国際ネットワーク分科会（第1回） 議事要旨

日 時：平成22年6月2日（水） 16：00－17：30

場 所：日本学術会議6階 6-C（3）会議室

出席者：（委員）大町、小谷、（参考人）斉藤、中埜、濱田、古川、

議事内容

1. 委員構成について

- ・ 本分科会は、土木工学・建築学委員会の大規模地震災害総合対策分科会 WG5 「国際貢献と人材育成」と内容が重なるため、当面の間、合同の委員会とすることが、濱田委員長から提案され、了承された。
- ・ 第1回目の分科会委員長を大町委員にお願いし、2回目以降より（中埜先生が特任連携会員になるため）中埜先生に交代する案が濱田委員長から示され、了承された。
- ・ 今村委員の名前が他の分科会にも入っているが、同時開催になるので、どの分科会に参加するのかを確認する。
- ・ 現在の委員が地震防災分野に限定されているので、他の分野の委員の追加を検討する。以下の方々に推薦して頂く。
 - 津波災害：今村委員（今村委員が他の分科会に参加する場合）
 - 水災害：竹内委員
 - 風災害：田村委員
 - 土砂災害：佐々委員
 - 社会学：直井委員
- ・ JICA からも参加をお願いする。
- ・ 追加の委員については、濱田委員長の了解をもらう。また、分科会の前に開催される検討委員会にも参加できるかどうか確認する。
- ・ 分科会幹事を、2回目以降より、斉藤先生にお願いする予定である。（斉藤先生が特任連携会員になるため）

2. 分科会の活動について

- 報告書になるような成果を出すには、具体的な作業方針を決める必要がある。
- 人材育成の目的は？
 - チリ地震では、日本からの調査団のカウンターパートは元研修生であった。人材育成が起きた事例だと思う。
 - 日本で指導者を育成して、帰国してから現地で教育してもらえれば、よりいっそう普及が進む。
 - 人材育成の対象も、技術者、研究者、行政官など対象が様々である。途上国はトップダウンで動くので、行政官の研修をすとうまく動くことがある。
 - 人材育成にも戦略が必要。
- 国際ネットワークをつくる目的は？
 - 建築研究所では元研修生のネットワークを生かした8カ国の国際ネットワーク（ユネスコ・プロジェクト）の構築を進めている。被災国に近い国が調査を担当するなど、地域性を生かすことを目指している。
 - JICA でも、第3国研修として、日本が協力した国が中心になり、周辺国から人を集めて研修する制度がある。
- 人材育成の難しさは？
 - 本当に役に立っているのかを評価することが難しい。研修後にどの程度活躍しているかなど、追跡調査が必要である。
 - JICA 研修の場合、相手国からの要請がないと動けない。たとえば、防災分野は数多い JICA 研修の中でも優先順位が必ずしも高くなく、選ばれないことがある。

3. 次回までの宿題

- 各自、講演された河原さんの資料を見直して、人材育成と国際ネットワークの観点から、参考になる点、補足する点、批判等、をまとめた簡単なメモを作成する。

以上